

わび茶の祖

珠光さんと 茶の湯

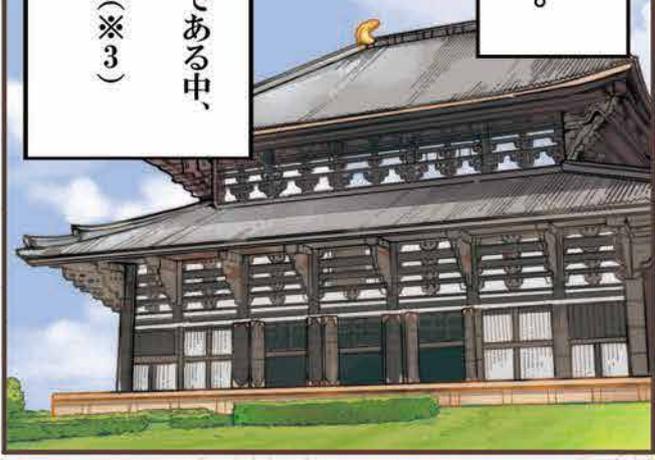
【インデックス】

- ・マンガ「わび茶の祖 珠光さんと茶の湯」 P 1 - 8
- ・茶の湯の祖 珠光さん P 9
- ・出家の寺「称名寺」 P 9
- ・茶の湯の世界に名を残す 茶人系譜 P 9
- ・そして現代 - 珠光茶会を開催 P 10
- ・はじめての珠光茶会 P 11
- ・茶の湯 Q & A P 12
- ・ - お茶文化を支える -
茶の湯と奈良の工芸品 P 12

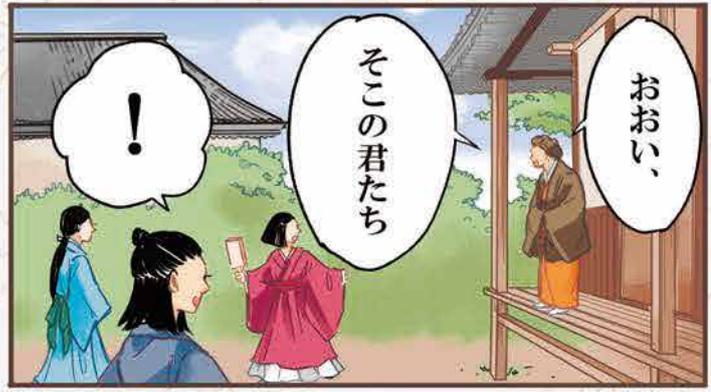
※1 大和国：現在の奈良県のこと。
 ※2 大和猿楽：大和国を拠点に活動した芸能集団。能・狂言の古称。
 ※3 茶の湯：茶道の意。客を招き、湯を沸かし、抹茶を点てて振舞うこと。

応仁の乱
 (1467)の世。

京の都が文化の中心地である中、大和国(※1)もまた大和猿楽(※2)、茶の湯(※3)などの文化が発展し



活気に溢れていた。



おおい、その君たち

その君たち

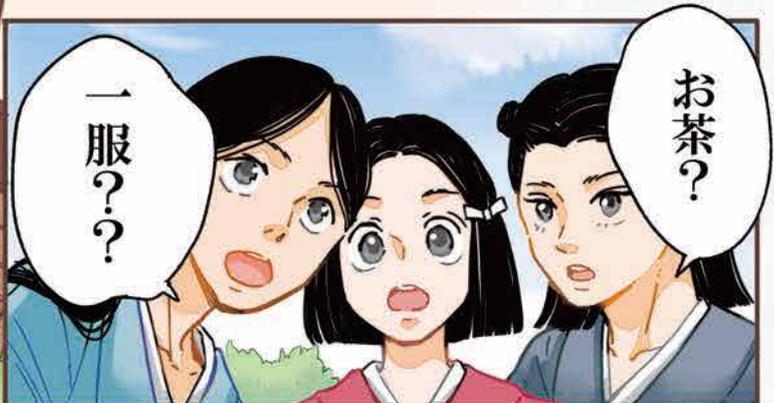
!

そんな大和の東大寺・転害門近くで、

草庵(僧侶の住まい)を構える僧侶がいた。

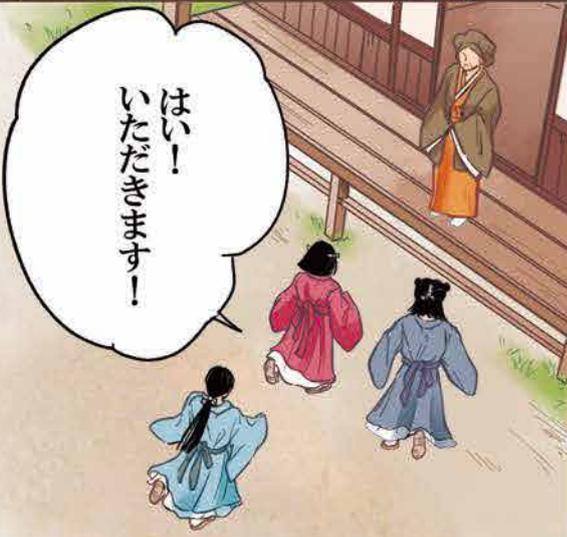


お茶でも一服いかがかな



お茶？

一服？？



はい！ いただきます！



わからぬけど

よく

??

僧侶の名は**珠光**。
じゆこう

茶の湯者として
すでに知られた
存在であった。

室町時代
応永30年(1423)に
大和国に生まれ、
11歳で出家
しゅつげ

称名寺(奈良市)に
入寺した後
20歳以降に京都へ。

応仁の乱の時世に
奈良へ戻ってきた。

お菓子(※1)を
どうぞ。

※1 お菓子：昔は干し柿や栗だったが、
今は和菓子をいただく。

称名寺
どくろあん
獨盧庵(現状)

一礼してから

手に取って
いただくんだよ

はい！

お茶は昔から
中国で薬として
飲まれてきたものだ。



中国が唐と呼ばれていた頃に、
日本の遣唐留学僧(※1)だった

さいちよう
最澄さんや
くうかい
空海さんも

お茶を日本に持ち帰った
と言われているよ。



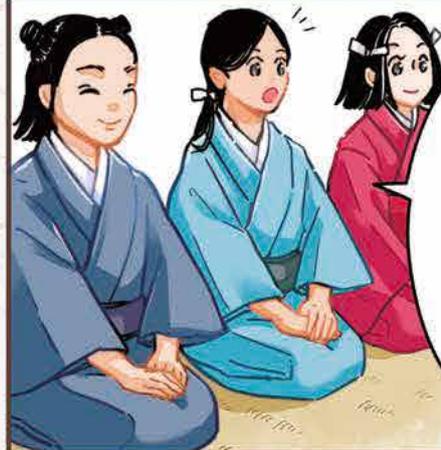
※1 遣唐留学僧：遣唐使とともに中国に文化を学ぶため海を渡った身分の高い僧侶。
入唐時、最澄は朝廷の要請を受けた高僧であったが、空海は大勢の学僧の一人だった。

盛んになるのは鎌倉時代からで、
中国が宋の時代になり
宋へ渡った禅僧の栄西さんが
宋より抹茶法を日本へ伝え、

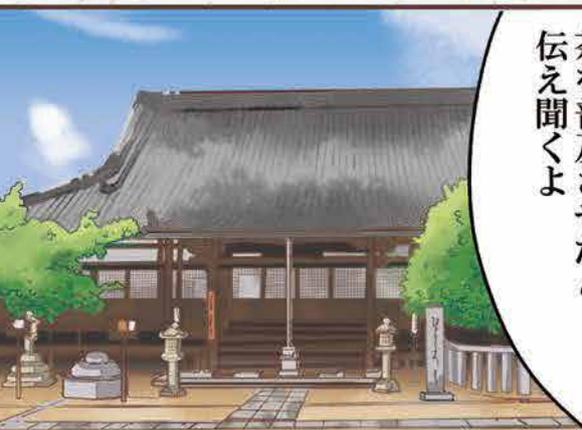


三代将軍の
源実朝公に
茶を薬用として
献上している。

将軍や
高貴なお方も
お薬として
飲まれたんですね



西大寺を復興した
叡尊さんというお坊さんも
茶を普及させたと
伝え聞くよ

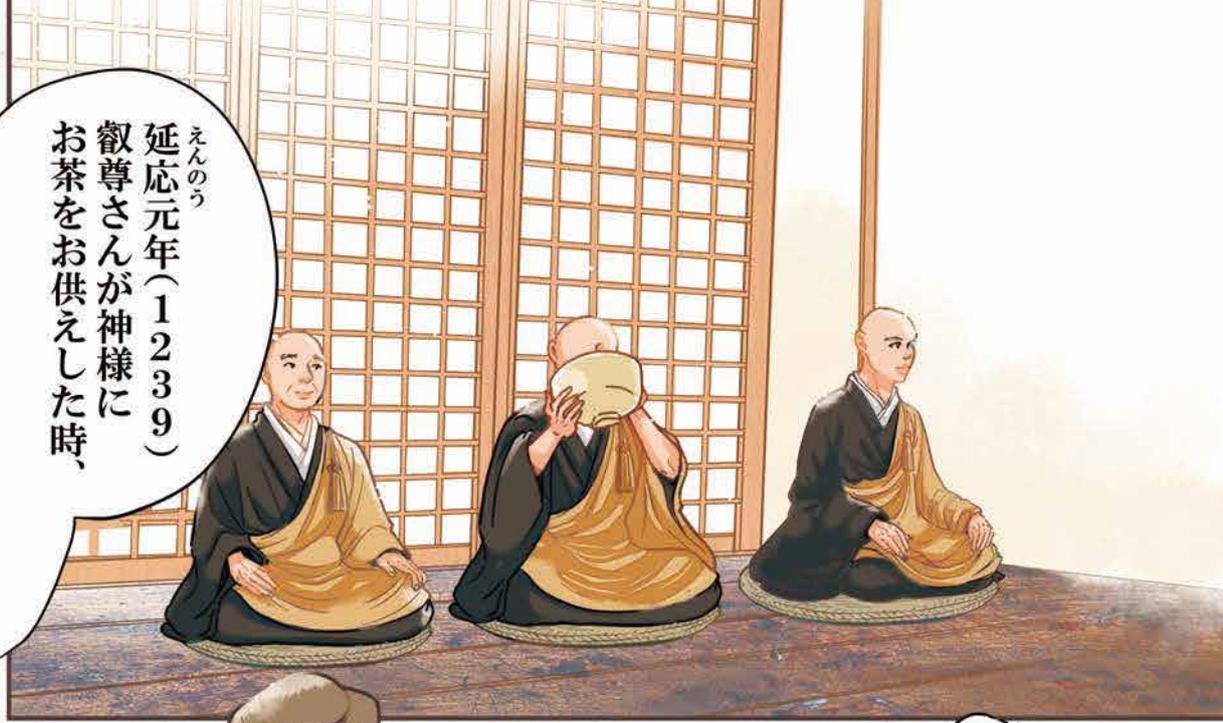


西大寺 本堂

※1 この出来事がのちに西大寺(奈良市)の
大茶盛式へと発展する。

えんのう
延応元年(1239)
叡尊さんが神様に
お茶をお供えした時、

余ったお茶を僧たちに
振舞ったと言われている
(※1)



今は大和にいて、

このような
四畳半敷の小間で、
いろんな人にお茶を
知ってもらいたくて、

こうして
あなた達を
ここへ呼んだんだよ



薄茶(※2)
を淹れるね。

茶碗には、
お抹茶の粉と
お湯を入れるんだ

さあ、どうぞ



※2 薄茶: 一般にお抹茶としてイメーシされるもの。
少なめのお抹茶(粉)に湯を入れ、茶釜で点てた泡立つお茶のこと。

ズズ...

お味は
どうかな。

ありがとう
ございました！

ふふ。

少し苦いかも
しれないが...

はじめてのお抹茶は、
生涯忘れられない味となった——

ストツ

ほん!!

お茶は
身体に良い飲み物で、
眠いときに飲むと
頭もスッキリと
するんだよ

時は流れて……
戦国時代、
天文13年(1544)

23歳の
若き青年が
いた！

子ども時代に
珠光からお茶の歴史、
作法を学び、美味しいお茶を
淹れて頂いたことがあると
祖父から聞いていた

今日の茶会
の事も記録
しますよ。

さて

まつや ひさまさ
松屋久政
(1521~1598)
である

久政は
珠光が庵を営んだ
転害門近くに住み、
塗師屋(※1)を
営む商人である。

※1 塗師屋：漆器の
卸問屋のこと(松屋の場合)

傍らでお茶の世界に
興味を抱き、
茶の湯の祖、珠光に
憧れて珠光流を継承する
茶人としても活動。

京や大坂の茶会に
招かれては赴き、
自らも茶会を
開いて

それを
記録していた。

それがのちに
「松屋会記」
となる。

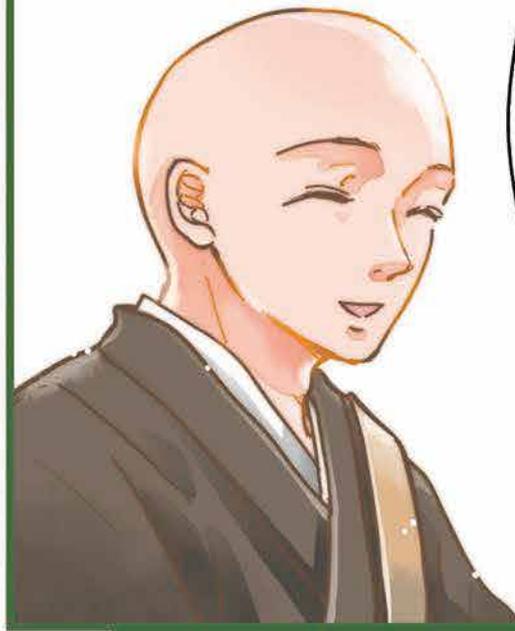
久政と
称名寺の住職の惠遵房
は天文13年2月、
堺(今の大阪府堺市)で
千宗易(千利休)の茶会に
参加して帰宅した
ところであった。

おしょう
和尚

私をはじめ
茶会記を書いたのは、
東大寺の四聖坊(※2)
で開かれた茶会へ
行ったときのこと
でした。

※2 四聖坊：東大寺内にある僧侶の住居(坊)。
坊跡は現在の正倉院構内に位置する。

今日の
千宗易(千利休)
さんの茶会では、
珠光茶碗(※1)
が素晴らしかったよ



その後

松屋は3代にわたり
茶会記を記した。



松屋3代目の久重
(1566〜1652)が、
先代らの記した茶会記を
「松屋会記」に集成した。



千宗易の茶会では、
珠光ゆかりの寺院、
称名寺の住職を
珠光茶碗でもてなした
という。



千利休(1522〜1591)
久政の一つ年下で、
安土桃山時代の天下一の茶匠。

※1 珠光茶碗：珠光が所持したとされる名物の茶碗。
※2 指南役：指導する役。

千利休の弟子、
有名な大名の細川三斎(忠興)
は、久重に

利休が言うことには、
『どんなことがあっても、
珠光が決めたことは、
直さないのがよい…』
と伝えたという。

珠光を崇敬し、わび茶を大成した。
織田信長、豊臣秀吉の指南役(※2)
になり、秀吉の側近として活躍した。
珠光へのあこがれは、
弟子が受け継いでいくことになる。



完

※このマンガは史実をもとにしたオリジナルストーリーであり、一部にフィクションが含まれます。

茶の湯の祖 珠光さん

〔草庵で生まれた茶の湯〕

応永30年(1423)奈良に生まれ、11歳で出家、奈良の称名寺に入寺し、珠光の名を授かります。20歳前にこの寺を出て京都へ。応仁・文明の乱のときに奈良に戻り、転害門近くの中御門町(諸説あり)に草庵を建てました。「珠光房」と呼ばれ自ら客を迎えて茶を点てていたことが茶の湯のはじまりと言われています。晩年に京都へ戻り、80歳で生涯を終えました。

【出家の寺「称名寺」】
 珠光が出家した寺。珠光ゆかりの茶室「獨廬庵」があります(現在の物は江戸後期の再建)。珠光が亡くなった5月15日には珠光忌という法要が営まれています。



「称名寺 山門」奈良市菖蒲池町7 (近鉄奈良駅近く)

茶の湯の世界に名を残す 茶人系譜 [室町時代～江戸時代]

【室町時代】

お茶が賭け事の対象となり、道具が華美になる中、茶文化のあり方を見つめ直したのが珠光です。珠光は禅僧の一休宗純を師とし、その教えをもとに「わび茶」を創始しました。その跡を継いだ宗珠の弟子らの茶の湯が、商業の盛んだった堺に広まりました。

【安土桃山時代】

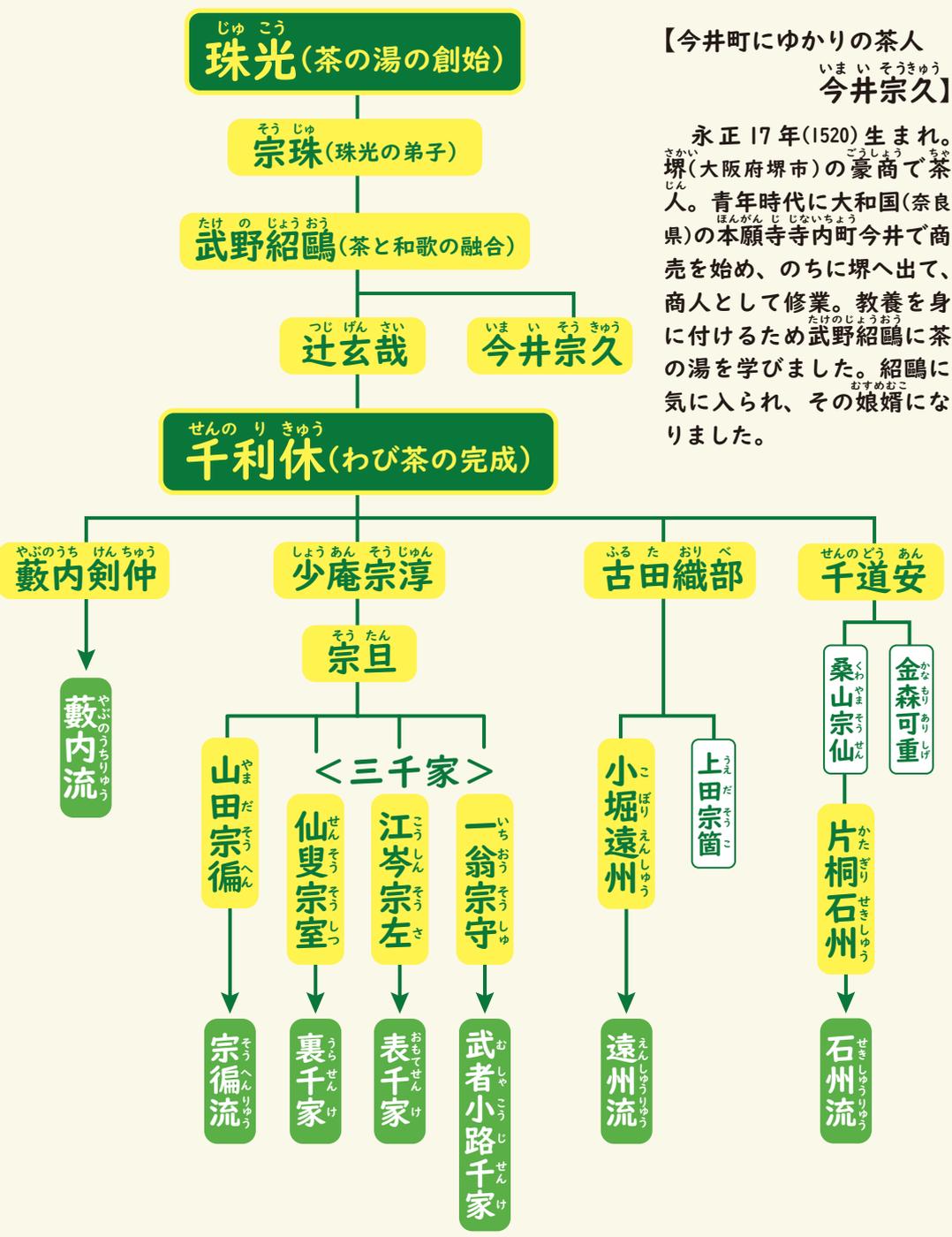
室町時代後期から活躍した千利休(1522～1591)がわび茶を大成し、これが現在の茶の湯の基礎となります。利休が珠光を尊敬し、その教えを広めたことから、珠光は茶祖と言われるようになりました。

【江戸時代】

利休亡き後、娘婿・少庵の子、宗旦が跡を継ぎました。その流れを汲む「三千家」には表千家、裏千家・武者小路千家があります。また、青年期を大和郡山で過ごした小堀遠州、慈光院(大和郡山市小泉町)を建立した小泉藩主片桐石州らも茶道の流祖になりました。

【今井町にゆかりの茶人 今井宗久】

永正17年(1520)生まれ。堺(大阪府堺市)の豪商で茶人。青年時代に大和国(奈良県)の本願寺寺内町今井で商売を始め、のちに堺へ出て、商人として修業。教養を身に付けるため武野紹鷗に茶の湯を学びました。紹鷗に気に入られ、その娘婿になりました。



そして現代——

珠光茶会を開催

〔珠光茶会とは〕

世界遺産「古都奈良の文化財」をはじめ、奈良にはいにしえより受け継がれたさまざまな伝統が今も息づいています。珠光によってつくり出された「わび茶」はその後、千利休によって大成され、今日に伝わる茶の湯の基礎となりました。

日本を代表する文化の一つである茶の湯の、まさに「原点」をつくりだした珠光。その生誕の地である奈良の魅力、茶の湯を通して発信していきたい。その思いを込めて、開催しているイベントが「珠光茶会」です。毎年2月に開催しています（令和3年は新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止）。

〔流派とは〕

日本文化の一つ、茶道という同じ道の中で、それぞれ異なる歴史を持ち、その中で生まれた作法や流儀を継承している集団のこと。珠光茶会には七つの流派が参加しています。

〔七流派〕

おもてせんけ
表千家

うらせんけ
裏千家

おしやこうじせんけ
武者小路千家

えんしゅうりゅう
遠州流

せきしゅうりゅう
石州流

やぶのうちりゅう
藪内流

そうへんりゅう
宗徧流

〔珠光茶会が行われる会場〕



元興寺 (がんごうじ)



東大寺 (とうだいじ)



春日大社 (かすがたいしゃ)



唐招提寺 (とうしょうだいじ)



西大寺 (さいだいじ)



大安寺 (だいあんじ)

めいしょうだいじょういんていえんぶんかかん
名勝大乘院庭園文化館

奈良町にぎわいの家

はっそうあん
八窓庵



法華寺 (ほっけじ)



薬師寺 (やくしじ)

はじめての珠光茶会

「お茶席の流れ」

お茶席券を購入

詳細はホームページ「Jukotea.jp」を参照ください。

会場・受付

お茶席券を持参し、記帳します。

待合

順番を待ちます。

迎付

お茶席に入るためにお迎えがきます。

席入り

お茶席に入ります。

「お茶のいただき方」

お菓子が運ばれてくる

お点前がはじまる

お菓子をいただきます。

お茶が運ばれてくる

お菓子を食べ終え、自分にお茶が運ばれたらいただきます。

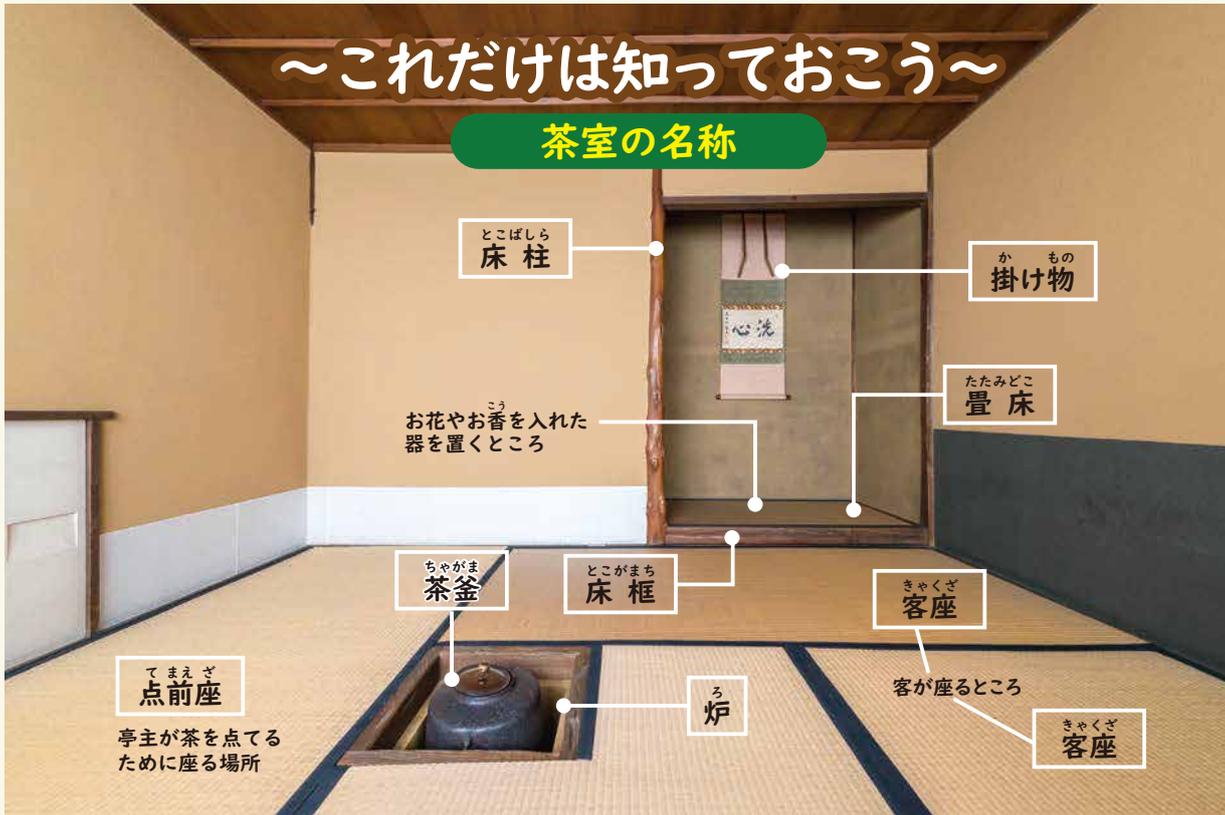
お点前がおわる

道具の拝見

退席

～これだけは知っておこう～

茶室の名称



よじょうはんじょうどこ
四畳半上座床

写真提供：『入門した人、したい人のための茶道(chado) BOOK』(淡交ムック)

着物でなくても大丈夫!

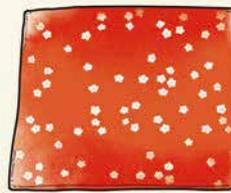


服装
洋服の場合
白い靴下を持参します。短パンやジーンズ、ミニスカートなどの軽装、派手なアクセサリを身に付けるのは控えましょう。(男女の衣装見本)

通常は懐紙、楊枝、帛紗、扇子などですが、持ち合わせていなくても参加はできます。懐紙、楊枝などは会場に用意されている場合もあります。

持ち物

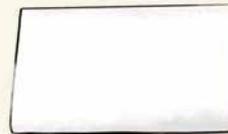
基本的な持ち物



だし帛紗 / 古帛紗



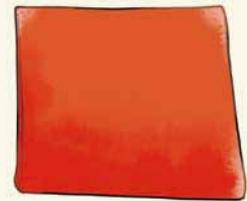
すきやぶくろ
数寄屋袋



かいし
懐紙



ようじ
楊枝



ふくさ
帛紗



せんす
扇子

参考：『入門した人、したい人のための茶道(chado) BOOK』(淡交ムック)

茶の湯Q&A



Q1 初心者の場合、席はどこに座ればいいのか。

A1 茶室では、客が座る場所の中で床の間に近い方を「上座(かみざ・じょうざ)」といい、メイングレストの正客が座ります。遠い方を「下座(げざ・しもざ)」といい、未客(一般の客のこと)が座ります。茶事・茶会には三役(正客・詰・亭主)がいて、初心者は三役が座る

席以外の場所に座りましょう。心配な場合は、会場で初心者だと一言伝えましょう。

Q2 お抹茶の中に、薄茶と濃茶があると聞きました。その違いは何ですか。

A2 薄茶は、少なめの抹茶とお湯を茶釜で点てた飲み物をいいます。各服(二碗に一人ずつ)に点てられます。濃茶は、多

めの抹茶とお湯を茶釜で練った、トロリとした飲み物です。一碗を客全員で順服(回し飲み)します。※感染病対策として、各服で出される場合もあります。

Q3 なぜ畳の縁を踏んではいけないのですか。

A3 縁には亭主(主催側)と客との境界線を示す意味があります。また、縁は高級な素材が使用されていますので、傷めないためにもマナーとして踏まないでお願いします。

お茶文化を支えるー茶の湯と奈良の工芸品



【奈良絵が代表的な赤膚焼】

うっすらとした、温かみのある赤みを帯びた器肌が特徴で、代表的な絵柄に奈良絵があります。江戸時代中期に大和郡山藩主の柳澤保光(堯山)によって再興され、広く知られるようになりました。

【茶中になる奈良晒】

晒は麻という植物から作られた高級な織物で、茶碗をきれいにする茶中になります。江戸中期は奈良町の住人の9割が奈良晒に関係していたといわれ、一大産業となりました。



茶道と煎茶道の違い



抹茶
お茶の木を覆い、日陰で育てた茶葉から作られます



煎茶
緑茶の仲間。日光を浴びて育った茶葉から作られます

日本の茶道には粉末茶を使用する抹茶道(茶の湯)と茶葉を急須で淹れる煎茶道があります。

抹茶道は一般的に茶道、茶の湯と呼ばれている作法で、茶碗に粉末の茶とお湯を淹れ、茶釜でシャカシャカと点てて「抹茶」をいただきます。

一方、煎茶道は急須に茶葉を入れ、小さな茶碗に淹れていただきます。

どちらも「夏も近づく八十八夜」の5月初旬に茶摘みがあります。

【お抹茶を点てる茶釜】

生駒市高山町では、室町時代後半に生産開始以降、一子相伝の秘伝として今日まで伝えられてきました。室町の茶人たちが使ったものとまったく同じ作り方をされた茶釜が、現在も用いられています。



【鉄でできた茶釜】

茶釜とは、茶事で湯を沸かす際に用いられる釜です。奈良県で唯一の釜師に、3代目川邊庄造がいます。西大寺の「大茶盛」の大釜など、多数の社寺で使用される茶釜を制作しています。

川邊庄造作 茶釜
撮影：竹前朗